

さめがわ村

みんなの議会だより

No
179

令和7年2月

題字：鮫川小学校

おかべ なな
6年 岡部 七菜さん

12
月
定
例
会

令和6年度一般会計・特別会計・公営
企業会計補正予算など可決 2～3
新年のあいさつ・議案調査 4～5
一般質問に7議員登壇 … 6～13
ふるさと鮫川への想い …… 14

向けて準備が着々と進行

12月
定例会



主な条例制定・改正

鮫川村村営バスの設置及び管理に関する条例

村営バスの運行について、業務委託をするとともに、デマンド交通の本格運行に向けた料金形態との整合性を図るため、村営バス条例を廃止し、新たに条例を制定。

鮫川村防犯カメラの設置及び運用に関する条例

公共の場所における犯罪の予防及び抑止等村民の安全安心のための条例を制定。

職員の給与に関する条例の一部改正

県人事委員会の勧告に従い、給料表の改正及び期末・勤勉手当の支給率並びに宿日直手当を改めるための条例改正。

- ◆ 月例給 若年層に特に重点を置き、すべての号給の給料月額引き上げ
- ◆ 期末勤勉手当 0.15月分引き上げ
- ◆ 宿日直手当 5500円 → 5600円
(令和6年4月1日に遡及して適用)

公立学校等複合施設地形測量 業務等に850万円



12月定例会の
あらまし

12月定例会が12月11日から13日までの3日間の会期で開催されました。
第1日目に、一般質問を行い7名の議員が登壇し、不登校防止への取り組みと高齢者の介護予防策や室内ゲートボール場の整備などを取り上げ、村政を質しました。
次に、専決処分の承認を求めることについての案件3件が提出され、原案どおり承認されました。鮫川村村営バスの設置及び管理に関する条例など

4議案や、令和6年度補正予算等を含む9議案の提案理由の説明がありました。
第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の合同で議案調査を開き、議案を審議しました。
最終日に、審議した条例、補正予算等を含む13議案を原案のとおり可決しました。
また、村長より工事請負契約の締結の議案が追加提出され、原案のとおり可決しました。

補正予算 一般会計

令和10年度

義務教育学校開校に

会計別 補正予算状況

会計別			補正額	補正後の予算額	議決状況
一般会計			6739万円	38億6296万円	全員賛成
特別会計	国保	事業勘定	5553万円	5億722万円	全員賛成
		直診勘定	△272万円	6073万円	全員賛成
	介護保険		13万円	5億3665万円	全員賛成
	学校給食センター		120万円	1億664万円	全員賛成
	後期高齢者医療		19万円	4399万円	全員賛成
会計 公営企業	簡易水道事業	収益的収入	0円	6749万円	全員賛成
		収益的支出	19万円	8825万円	
	集落排水事業	収益的収入	0円	2795万円	全員賛成
		収益的支出	9万円	3662万円	

補正予算の主な事業(一般会計)

歳入		歳出	
地方交付税		5000万円	
寄附金	ふるさとづくり (ふるさと納税等)	250万円	
	地方創生応援 税制寄附金 (企業版ふるさと納税)	150万円	
			
歳出		衛生費	
総務費	積立金(ふるさとづくり基金)	250万円	
			
企画費	人口ビジョン改訂業務委託 (国立社会保障・人口問題研究所による 人口推計が公表されたことに基づき、改 訂に要する業務委託)	329万円	
	生活バス路線運行費補助金 (福島交通路線バス運行費)	43万円	
	防犯灯修繕料	28万円	
民生費	こどもセンター昼寝用簡易ベット	21万円	
	幼児送迎バス添乗業務補助金	20万円	
		農林水産業費	
		保健センター内空調設備修繕料	39万円
		学校給食米栽培奨励事業費補助金 (米価高騰による買い入れ価格の見直し等)	420万円
			
		緑の文化財登録樹木診断業務委託 (火打石シダレザクラ・江竜田ヒガンザクラ)	20万円
		ふくしま森林再生事業整備業務委託 (赤坂中野・道少田地内)	473万円
		森林環境譲与税基金積立	796万円
		土木費	
		除雪業務委託 (積雪10センチ以上からの除雪による業務委託)	250万円
		道路維持補修用資材(側溝蓋) 購入(沢尻・薄ケ久保地内)	60万円
		教育費	
		公立学校等複合 施設地形測量業務	800万円
			
		公立学校等複合 施設基本構想 及び 基本計画策定業務	50万円

与えられた責務・全力で取り組む

議長 前田 武久

長年にわたり村民総参加
によつて取り組んできた豆で

達者な村づくり等様々な事
業が認められ、県内自治体で
は初の環境大臣賞を受賞さ
れたことは、私たち村民の名
誉であり誇りであります。

議会としては、現在進
められております義務教育
学校建設に向け、よりよい施
設の構築を図るため、昨年十
月に先進地視察（長野県中
川村・佐久穂町）を実施しま
した。

また十一月には、東白川地
方議長会主催者として、八年
ぶりの自治研究セミナーを
開催、住民ニーズと地方財政

について研鑽し、管内五十四
名の同僚議員との実務情報
の交換、ディスカッションを交
わし、住民福祉の向上に努め
ることを誓い合い、相互の絆
を深めることができました。

今後の議員活動に生かして
参りたいと思います。

一方、山積する行政課題、
中でも人口減少、少子高齢
化、雇用の場の確保、地域産
業の活性化、住環境の整備等
は、私共議員一同、「村民重
視」を第一に時代が求める新
たな視点を取り入れながら、
村民皆様の意見、要望を真摯
に受け止め課題に取り組ん
でまいる所存でありますので
皆様方の更なるご指導ご協
力をお願い申し上げます。

結びに本年が皆様にとつて
幸せな年でありますことを
ご祈念申し上げあいさつと
いたします。



新年あけましておめでと
うございます。

平穏な令和七年の幕開け
皆様にはお健やかにお迎えの
こととお慶び申し上げます。

昨年は村民の皆様の活躍、
めざましいものがあり、第三
十六回ふくしま駅伝での選
手団の活躍は、村民に勇気
と感動を与えていただき、ま
た村の部においては敢闘賞
を受賞されました。



議案調査

ガバメントクラウドネット
ワーク事業に527万円

令和6年度一般会計補正予算及び特別会計・公営企業会計補正予算を総務文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

総務文教 常任委員会

問 ガバメントクラウドネットワーク構築業務
527万円

答 地方公共団体使用の情報ネットワークを
全国統一にする費用

問 人口ビジョン改訂業務 329万円

答 人口推計が令和5年12月に公表されたことに基づき、改訂に要する経費

問 備品購入費 昼寝用簡易ベット16台 21万円

答 こどもセンターで、保護者等の負担軽減を図るため、昼寝用簡易ベットを購入

産業厚生 常任委員会

問 農地等小規模災害復旧事業費補助金
32万円

答 9月21日の豪雨により畦畔崩落が1件発生、国
の補助事業に該当しないため、村単独事業費

問 原材料費・道路維持補修用資材 60万円

答 村道 官沢・余所内線の側溝の蓋を400枚購入

問 議案第84号 工事請負契約の締結

答 村道巡ヶ作線壇の岡橋修繕工事において、断面修復工を追加施工することに伴い、144万円の追加工事となり、契約総額が5000万円以上の工事となるため議会の決議を求めるもの

研修会 レポート

11/26 地方自治研究セミナー

県町村議会議長会、東白川地方町村議会議長会主催のセミナーを8年ぶりに開催しました。福島大学 藤原遥准教授を講師に、地方財政や自治体経営について学びました。



議員 7人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



P 7

ほうじょう とし お
北條 利雄 議員

- 生成AIの行政と教育への利活用
- ヤングケアラー支援
- 不登校防止策



P11

もり た しげ お
森田 重男 議員

- 畜産農家への支援策
- 村道改修



P 8

みどりかわ しげる
緑川 茂 議員

- 高齢者の介護予防策
- 特別職、議員報酬等の見直し



P12

くぼ き こういち
窪木 浩一 議員

- うまいもの祭りに代わるイベント



P 9

もり たか ゆき
森 隆之 議員

- 村有財産施設
- 村発注事業の工期



P13

ほん ごう ひろ よし
本郷 弘義 議員

- 高齢者世帯の見守り
- 農作物の減収対策



P10

あお と よし ゆき
青戸 義之 議員

- 室内ゲートボール場の整備
- 奨学金制度の見直し
- 空き家対策

一般質問は、議員の日常生活を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。



議事の進行

まえ た たけ ひさ
前田 武久 議長



出席議員

えん どう たか ひと
遠藤 貴人 議員



北條 利雄 議員

問 生成AI(人工知能)の行政と教育への利活用は

答 各分野において検討をすすめる

質問

行政課題に対応するため生成AIを導入するメリットは大きい。限られたリソース(供給源・資源・財源)を新たな課題解決に振り向けることができる。教育や福祉分野など人でなければできない業務への人的集中のチャンスができ、住民の利益向上へもつながる。教育の現場での利活用も、児童生徒が自ら考える力、生きる力を育成していくためには、扱い方が極めて重要な課題。どの分野で活用することを想定し、どこから着手し、どのように拡大していくべきか。リスクをどう

想定し、どのように対処していくべきか。

答弁(村長)

人とAIが共存する社会形成が必須だと考える。行政分野においても急激に活用が進んでおり、DX推進本部において生成AIの行政活用などの検討を進めている。最も重視すべきことは、個人情報や機密情報の取扱い。情報の信頼性を担保するため、AIの回答に対し根拠となる情報源の裏づけをしっかりと行うことが重要。仕事への人的リソースの再配分など業務改革を進め、各分野において住民向けに実装する生成AIサービスの検討をすすめる。

答弁(教育長)

学校現場では活用のメリットの声がある一方、様々な懸念も指摘されている。教育活動そのものに関わる問題も含んでおり、利活用については国の対応を見極めて、取り組みと生成AIによる学習活動が

可能かどうかの見極めが重要。生成AIそのものを学ぶこと、使い方を学ぶこと、さらには活用すること、この段階を確実に経由することが大切である。児童・生徒の学びを阻害することがないよう対応する。

問 ヤングケアラーへの支援は

答 情報共有と連携を強化する

質問

一般に本来大人が担うと想定される、家事や家族の世話などを日常的に行う子供。家事や家族のお世話をするのと、その頑張りや家族への愛情は非常に尊いこと。その結果、学校に行けなかったり、友達と過ごす時間がなかったり、子供がその時期に経験すべき機会、その先の未来を奪ってしまう事態を招いてはならない。正しい理解と認識、相談できる取り組みを進める

必要性がある。認識と支援を踏まえた方策は。

答弁(教育長)

子ども若者育成支援推進法。その中でヤングケアラーの定義がある。家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子供若者とされる。支援すべき子供の存在を常に注視し、村長部局と連携、把握していかなければならない。現在、ヤングケアラーを危惧する状況はない。子供に過度な負担が生じていないか実態把握に努め、各学校に対し調査、情報共有やケース会議、民生児童委員との連携体制への指導を強化する。

問 不登校防止への取り組みは

答 あらゆる可能性を視野に体制づくりを努める

質問

不登校の児童生徒は年々増加の傾向にある。

心身の発達への懸念、義務教育の履修が不十分の事態にもなる。本人や家族においてつらい悩みとなるばかりではなく、未来へつなぐ子供は宝という観点からも、社会への大きな損失と考える。家庭との協力も得ながら多様な問題に取り組むことは一層必要。不登校の解消に向け、改善への基本的な考え方は。

答弁(教育長)

不登校は、心身の健全な発達を阻害する重大な社会的問題。対人関係などから避難または逃避する自己防衛の行動であると認識。教育を受ける権利が損なわれることから、真つ先に解決すべき課題である。本村では減少傾向にあり、不登校に対する予防的対策、発生後の事後対策、これを適切に講じながら学校、関係機関と連携し、あらゆる可能性を視野に入れた体制づくりに努める。



問 高齢者の介護予防策は

答 各種事業を検証し効果的に推進する

質問

人生百年時代と言われている長寿社会において、介護を必要とせず健康寿命をいかに延ばすかということは大変重要なことであり、それが医療費、介護費用の軽減に繋がることであり、その対策の一つとして、現在実施している「筋力づくり教室」の果たす役割は非常に大きい。令和4年度から各行政区ごとに行っているが、参加状況と参加者の反応及び実施効果の検証はどうか。また、今後高齢者がさらに増え

ていく中で高齢者支援としてどのような施策が必要と考えているのか。

答弁(村長)

令和5年度は村全体で83回開催し、登録人数は108名、延べ参加人数は925名だった。参加者からは会場が近くになって良かったという意見が多く寄せられている。また、青生野地区では1名だった参加者が12名に増加するなど、参加者の裾野が広がったものと捉えている。介護が必要となる大きな要因に認知症、生



みんなで楽しく筋力づくりに取り組む参加者

再質問

今年度から介護保険料が増額の改定となり、できるだけ要介護認定者の数を抑えなければならぬ。その手段の一つとして有効な事業である。会場への送迎も行っており、参加の周知方法等も含め参加を促す必要があると思うが。

答弁(村長)

認知症予防、健康寿命を延ばすのにはまず運動、そして運動を通して人と接し会話をすることなどにより、要介護が必要となる割合も4割方低くなると言われている。そのためにも取り組みを推進し、参加して頂くよう積極的に支援していく。

意見

高齢者の中には「筋力づくり教室」となっているため筋力運動だけをやるものと思っている人もいいる。実際、「脳トレ」などいろんな種目も取り入れて実施しているので名称の変更を検討してはどうか。

問 特別職議員等の報酬等の見直しは

答 令和7年度に審議会を開催する

質問

特別職及び議員の報酬等については、平成18年に減額を実施して以来、18年間据え置きとなっている。現在の内容は、特別職の給料が20%から30%の減額、議員報酬は25%の減額となっている。この報酬額は県内町村で最も低い状況であり、人口規模など類似する自治体と比較しても最低水準である。減額実施から18年が経過しており当時とは社

会経済状況は大きく変化している。村民の理解を得ながら、適正水準に戻す検討をすべきであると考えているが村長の見解は。

答弁(村長)

県内において大変低い状況であることは認識している。報酬などの見直しは住民の理解と納得が不可欠である。人口規模や財政状況等を踏まえ、特別職や議員が果たすべき役割の重要性と報酬などの適切性について、住民の意見を受け止めながら公正な議論を重ねることが重要である。令和4年10月に特別職報酬等審議会を16年ぶりに開催し4回の審議の結果、全ての職において現行の額を据え置くことが適当であるとの答申があった。その際、概ね4年に1回開催し適正な水準であるのか審議すべきとの付帯意見があった。このことから令和7年度に審議会を開催する方向で考えている。



森
隆之議員

問

村所有施設の再利用や処分計画は

答

基本的に処分する方向で考えている

質問

村所有の施設、歴史民俗資料館、山王の里、旧富田小学校、旧青生野小学校、「ほっとはうす・さめがわ」の今後の再利用計画、または処分計画は。

答弁(村長)

歴史民俗資料館は、施設の老朽化が著しく機能を保持するため、移転を検討。山王の里は、現在指定管理者2



鮫川村歴史民俗資料館



山王の里



旧富田小学校



旧青生野小学校



旧交流施設
ほっとはうす・
さめがわ

再質問

基本的に古い建物、特に教育施設などは「資本的支出(※1)」は行わないほうが良い。建物は

校は、一部を青生野地区の集会施設、災害時対策室として活用する方向で進んでいたが、利用するまでには至らず、現在は維持管理のみとなっている。今後、再度活用方法について検討する。

※1【資本的支出】

修繕やリフォームにより建物の価値を高めること。

答弁(村長)

多額の費用負担は予想している。処分計画は進めていかなければならない。しかし旧西山小学校は、介護施設で利用されている事例もある。それらを含めて検討していきたい。ただ基本的には、処分するという方向でいきたいと思っている。

問
草刈りは時期や季節が重要では

答
適切な時期に実施できるよう調整する

質問

村が発注している事業で、土木建築事業等は季節が関係なく工期日程がある。しかし、景観維持事業の草刈り事業などは工期より時期や季節が重要となる。草が伸びる時期に作業が間に合わないということはいかなるものか。

答弁(村長)

今年度は県の都合により業務委託契約が大幅に遅れ、草刈り作業の着手は通常より1か月遅い7月中旬となった。さらに、人手不足や猛暑の中で、思うように作業が進まず、1回目の草刈り作業が8月中旬の完了となった。2回目の草刈りは9月下旬からとなり、全ての作業が完了したのが10月末となったのが実情。今後は、適切な時期に草刈り作業が実施できるよう、県に申し入れを行うなど十分に調整したい。

◀次のページは

一般質問 青戸義之議員・森田重男議員



青戸 義之 議員

問 室内ゲートボール場の施設整備を

答 多方面から考慮し検討していく



質問

旧富田小学校校体育館は、現在ほとんど使用していない状況。村のゲートボール協会から、雨天及び冬期間でもゲートボールをしたいとのこと。ゲートボールの競技は体力的に負担が少なく、戦略を必要とする場面が多く、脳の活性化にもなり認知症の予

防にも有効である。既存施設の有効利用さらに健康長寿を延ばす取組の一環として、年間を通して使用できる室内施設として整備を願いたい。

答弁(教育長)

高齢化に伴い社会全体で交流活動やスポーツ、健康教室などを通じ

問 奨学金返還免除者の改正は

答 選考委員会等で幅広く検討していく

質問

奨学金の貸付や返還状況、大学及び大学院卒業後、村に居住し、農林業、保健福祉、医療に10年間就業した方は奨学金の返還が免除されているが、何名いたのか。

人口減少が進んでいる昨今、移住者を増やすのも難しい中で、返還免除者を現在の職種に限らず、村に10年以上

健康寿命を延ばすことは大切な住民サービスである。

年間を通じて利用できる施設の整備については、これまで膨大な経費が発生することから現有の施設を整え、利用していると認識している。施設の利用の実態や今後の活用の見通し、見込みなどを考慮し、慎重に検討していきたい。

の居住者は免除するということに改められないか。

答弁(教育長)

令和になってから76名、現在は17名が利用している。返還は順調に経緯しており滞納者はいない。返還の免除者はこれまで1名。貸与条例に即して免除している。奨学金は基金をもとに貸与と返還の循環、借りたものは返すという原則、制度であり、新たな制度には基金の取崩しが必要になる。村の振興、発展に寄与する方を大切にする制度について、奨学金貸与条例の改正だけでなく、幅広く検討する必要がある。

村人口の減少と近年貸与者が減少していることを踏まえ、奨学生選考委員会において十分に検討し、改正の可能性を探っていく。

問 空き家対策の助成は

答 施策として進める

質問 村内の空き家対策、また、空き家解体希望者への資金面への助成は。

答弁(村長)

県の空き家改修等支援事業が令和6年度から市町村で実施することになり、助成内容の拡充を図っている。空き家の利活用を促進する施策であり、移住定住につながるものと考えている。適正な管理、速やかな売却や取壊しなど、空き家にしない対応に取り組む。空き家の解体に対する助成制度は現在のところないが、国においても同様に制度がない。個人の資産である家屋等の管理は、所有者、相続人が管理すべきものであり、村が介入すべきものとは考えていない。とはいえ現在、本村においても空き家は増加傾向にあることは承知している、今後の村の施策を進める中で、財政状況を鑑み、その方向性を検討していく。



森田 重男 議員

問

畜産農家の振興対策は

答

農山漁村活性化基金を活用した機械の導入を図る

質問

村には67戸の畜産農家がある。飼料、資材の高騰または家畜市場の価格が低迷により、畜産農家の意欲が衰退し、

また高齢により後継者がいないなど、畜産農家の経営が困難な状況のため、村独自の支援策を視野に入れた検討が必要では。

答弁(村長)

飼料費や資材費の高騰、高齢化と担い手不足により、持続的な経営が困難である畜産農家が多数あることを承知している。村では自給飼料の生産増加や農機具マッチングでの機械の導入などにより生産コストの低減を図るほか、農山漁村活性化基金を活用した機械導入により労働力の低減につながる事業の推進を図っていく。さらに、令和5年度には畜産農家の経営に畜産クラスター協議会を設立した。今後は、協議会を活用した国支援策や、和牛部門へのヘルパー制度の導入を検討するなど、畜産経営が持続可能となるよう引き続き支援していく。

再質問

鹿角平観光牧場で草地を畜産農家が刈取りしているが、数件の畜産農家がやめる状況なので観光牧場としての景観を図る上での維持管理は。

答弁(農林商工課長)

鹿角平は、これまで4件の農家で草地を管理し、そのうち3名が今年度で終わりたいという話を受けている。現在、管理者を募集していて、2名いる、協議の上、管理する土地をこれから検討していく。

意見

草刈りは6月頃から、約3回程度行う。観光牧場の維持管理においては、草刈りは重要である。また、刈った草をどこかに供給すれば良いが、そのまま放置しておくといノシシの牧場になるので、十分検討願いたい。

答

国の交付金で改良を進める

質問

村道世々麦・西谷地線は、国道289号線のバイパス路線となり、大型車が頻繁に往来し、

スクールバスの路線にもなっている。公共交通には重要な路線となっているが、路面の損傷がひどく交通に支障するなど早急な路面改修が必要である。
改良工事の計画は。

答弁(村長)

経年劣化により傷みも激しい状態である。国の地方創生道路整備交付金を活用し、令和7年度から令和10年度までの4年間で道路改良工事を行う予定である。

再質問

森林管理署の大型車在使用している状況でもあるが協議は。

答弁(地域整備課長)

森林管理署には再三、道路整備を要望しているが、橋梁等の点検のほうに予算が回っているため、資金繰りが困難なため国の地方創生道路整備交付金で改良を村が進めていく。

◀次のページは

一般質問

窪木浩一議員・本郷弘義議員

問

「うまいもの祭り」に変わるイベントは

答

新イベントで交流人口の拡大を目指す

窪木 浩一 議員



質問

昨年中止になった「うまいもの祭り」は楽しみにしていた方から大変残念との声があり、本年は「田舎くれんぼ」のロケや「ドレッドカリパーティー」等の音楽イベントが村内で行われ、おおいに村も賑わったが、今後そのようなイベントを企画・開催する予定は。

答弁(村長)

うまいもの祭りはこれまで32回継続されてきたが、事業主体は商工会、JA、村で企画・準備・片づけまでほぼ手作りで行われてきたが、新型コロナウイルス感染症の流行以降は開催が中止となり、事業主体である3団体でも高齢化や人員不足、組織再編などにより様相は変化し、これまで通りうまいもの祭りを継続することは困難となった。今年度は「ドレッドカリパーティー」と共催だが、県サポート事業を受け、開催・運営方法を見直し、ごめがわうまいものマ

再質問

ルシエ」を同時開催した。村の食と文化を発信し、交流人口の拡大と村の知名度アップに貢献。今後さらに拡充し、地域の活性化と経済の向上に寄与できるよう検討する。

村、商工会、JAが中心になり、その他の団体もボランティア参加していたが、今後はボランティア協力だけではカバーできない時代になってきたと感じる。「もてなし型のイベント」から「参加・体験型のイベント」に変化していくべきかと感じるが。

答弁(村長)

村とJAと商工会だけでは賄えない状態になっており、「参加型イベント」も大変大事な取り組みだと感じ、ぜひ積極的に検討したい。

再質問

本年も様々なイベントが村内で行われ、ガストロノミーやロゲイニングをはじめ、草刈りボラ

答弁(村長)

ンティア等、参加者が達成感を感じるユニークな企画が数多く行われた。小規模なイベントながら体験を伴うことは記憶に残るようで大変好評と聞く。小さなイベントを季節ごとに開催することは村の活気・魅力を伝える役割を大きく担っていると感じるが。

草刈りボランティアは、あくまでも草刈りを楽しむイベントだったが、草刈りだけでは将来的に継続が難しいと考える。畑で作物を育てたり、植樹して実を取ったりなどの体験を検討しており、このような体験型イベントは、重要な施策だと考え、今後更に検討する。



沢山の観客で賑わうイベント



本郷 弘義 議員

問

高齢者世帯等の見守り支援策は

答

各支援団体や地域と連携を深める

質問

高齢者世帯は、年を重ねるごとに、ままならなくなっていく日常生活に日々不安を感じて生活をしている。健常者でも高齢になれば突発的なけがや病気の発生日リスクは高まる。高齢者が孤立しないよう、見守りができるような制度があれば、安心して暮らすことができる。村の高齢者世帯の見守り支援策は。

答弁(村長)

村では、社会福祉協議会と民生児童委員協議会に委託し、高齢者の生活援助サービスと安否確認を行っている。希望により緊急通報装置の設置や配食サービスを行っている。また、日本郵便と締結し、高齢者や子供の見守り行動も行っている。今後も在宅福祉サービスの充実に向けて、支援団体や地域の皆さんと連携を深めながら、高齢者が安心して暮らせるよう見守りを実施していく。

意見

人生を楽しむことは、全ての人々に与えられた権利だ。人それぞれの生き方を尊重し、皆が生きがいを持って日々を送れるような見守りであってほしい。

問

大豆の減収対策について、緊急支援策を望む

答

減収分に応じて買上単価を上乗せし、生産意欲を継続させたい

質問

今夏は昨年に増しての猛暑であり、異常高温により、今年度の農作物の収穫量の減収は甚大であった。村が稲作からの転作を奨励している大豆栽培については、昨年に比べ、収穫量も激減の結果だ。そのことにより生産者が生産意欲をなくしている。生産者が減少すれば、「まめ達人な村づくり」が根本から崩れてしまう。早急

な手立て、緊急支援策を望む。

答弁(村長)

今年大豆の生育状況は順調な生育状況であったが、十月頃、複数の生産者から生育不良の報告を受け県に報告し、原因の究明を依頼した。結果、開花期までは良好であったが、その後、青立ちや、さやつき不良、病害虫の影響を

意見

受けたとのこと。今月から集荷が始まるが、品質が低下し、減収となる見込みだ。村では減収分に応じて買上単価を上乗せすることで減収分を補填し、次年度への生産意欲を継続させたいと考えている。

支援策に期待する。耕作者が意欲を持って働くことは、健康寿命を

延ばすことにもつながる。また、健康寿命が延びれば介護保険料も変わる。働くことの効果は多方面にわたり非常に大きい。その相乗効果は想像以上と言える。農地の保全、耕作放棄地の防止にもなる。耕作者の有益な力を持続させてほしい。



期待された大豆の刈り取り



品質低下の大豆

次のページは

ふるさとへの想いシリーズ(53)です

ふるさと鮫川への想い シリーズ⑤3

心の拠り所

気付けば鮫川村を離れて人生の半分が過ぎてしまいました。これまで故郷の為に何もしてこなかった謝意を込めまして、今回の投稿文を書かせて頂いておきます。私の人と成りを交えつつ思いを書かせて頂きます。

幼少期は令和の子供たちの様にゲーム機や、タブレット

◆プロフィール

- ・昭和57年2月9日生
- ・西野小学校卒業
- ・鮫川中学校卒業
- ・白河高校卒業
- ・日本大学工学部卒業
- ・本田技研工業(株)入社

【家族】妻・一男一女



さとうともひこ
佐藤 智彦さん

熊本県菊池郡菊陽町在住(赤坂西野字火打石出身)

レットも無い環境でしたので、方部の同世代と何か面白そうな事やモノを五感を使つて見つけ出しては、夕方まで外で遊んでおりました。実家が村の外れに位置している事もあり、夕暮れが迫ると西の空の向こう側から聞こえる町の音や、水郡線の走る音がはっきり聞こえます。私はその音を聞きながら、あの夕日の沈む山の向こう側に、きつとワクワクする世界が広がってるんだろうと妄想する子供でした。

亡くなった今でも感謝をしております。一方で上空を見上げると白い点に見える飛行機のとを追いかける様に、ジェットエンジンのうなり音が聞こえてくるのを不思議に眺めながら、いつかあれに乗って海外にも行ってみたいなど思っております。

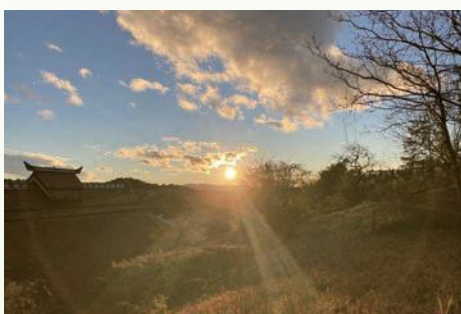
小学校は木造2階建てだった頃の西野小学校に通い、床に空いた隙間の向こう側の空間に色んな想像を掻き立てられつつ、同級生と笑ったり、怒ったり、泣いたりしながら遊んでおりました。鮫川中学校はいろんな小学校から生徒が集まっていた事もあり、上下関係や友人関係を広げていった頃でもありました。その後、高校・大学は村外に通い、念願だった企業に就職。現在は熊本県の工場に所属しております。仕事では東南アジア、ヨーロッパ、アメリカと様々な国へ出張や駐在し生産支援業務をしております。

感覚の赴くまま、付度や本音と建て前が身に付かずには育った自分自身に思春期は悩んだこともありましたが、海外業務ではそれが逆に良い結果を生む

方向に生きてます。故郷を離れるまで過ごした経験と、人との繋がりがあったからこそと思います。

赴任先や出張先でつらい時、苦しい時は「自分には帰れる故郷があるから大丈夫」と言い聞かせたり、山間に沈む太陽を思い出すことで乗り越えて来れます。最近、帰省すると澄んだ空に輝く夕日に対して感謝を込めて祈っております。(息子、娘から観たら変なオヤジでしょうね。)

鮫川村に当たり前にある静かで清らかな環境と人に私は価値があると思います。心の拠り所があり続けられるよう、今の私にできる事から故郷の為に何かをしたいと考えております。



実家から見える夕日

編集後記

今年(巳み)のなる年として、また種が大きく実を結ぶ年でもあるようです。「新しく産まれてくる」、「将来・未来がある」といった意味もあります。これは、へびが定期的に脱皮を繰り返すことと由来し、生命力や再生、変化と進化の象徴とされているからだそうです。また、「巳」という漢字は、胎児の形から派生したとも言われ、「子孫繁栄」や「家族平和」といった意味をもつといわれています。議会では、村が取り組む子育て・教育・福祉施策、防災・減災対策などの諸課題や施策にみなさまの声が確実に反映されるよう、鋭意努力してまいります所存です。ご支援・協力とご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます。結びになりますが、村民のみなさまの益々の健康とご多幸を心から祈念申し上げます。

(広報編集委員)

コロナ禍 家族で帰国する際のタイ国際空港にて

